

記者発表（資料配付）				
月日(曜日) 時間	担当課・班	電 話	発 表 者	その他の発表 資料配付先
3月28日 (水) 14:00	社会教育課 施設・管理班	078-362-9434	課長 土屋 由利子 (主幹 茶谷 剛安)	文部科学省

平成30年度子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）に対する 文部科学大臣表彰の被表彰者の決定について

1 趣旨

平成13年12月に公布・施行された「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、子どもの読書活動の一層の推進を図り、国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めることを目的として、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高める活動について優れた実践を行っている学校・図書館・団体（個人）を文部科学大臣が表彰する。

2 被表彰学校・図書館・団体（個人）

平成30年度は、兵庫県から推薦の下記3校、1団体の表彰が決定した。

学 校	神戸市立塩屋小学校
	近畿大学附属豊岡高等学校・中学校
	学校法人 松蔭女子学院 松蔭中学校・高等学校
団 体	遊文庫

※ 今回の全国被表彰学校及び図書館、団体(個人)数については以下のとおり

- | | |
|-------------|---------|
| 1 被表彰学校数 | 136校 |
| 2 被表彰図書館数 | 47館 |
| 3 被表彰団体・個人数 | 53団体(名) |

3 表彰式

「子ども読書の日」記念 子どもの読書活動推進フォーラム にて表彰

- (1) 期日 平成30年4月23日(月)
- (2) 主催 文部科学省、国立青少年教育振興機構
- (3) 会場 国立オリンピック記念青少年総合センター カルチャー棟

(参考) 活動の概要

(1) 神戸市立塩屋小学校

当該学校では、毎朝の読書（10分）、ボランティアの方による読み聞かせや本の整理や補修、委員会活動を通じた児童作成による推薦図書の紹介や図書室新聞の掲示、集会で図書室の使い方やビッグブックの読み聞かせを行うなど、児童たちの読書活動を推進するための取組を行っている。

また、おすすめの本や新しい本を棚の上に提示するなどして紹介し、児童が本に興味をもち、手に取る機会を設けている。さらに、教科の学習に必要な図書を選定するために、各学年に聞き取りを行い、学習センター、情報センターとしての役割を果たすことができるよう努めている。

(2) 近畿大学附属豊岡高等学校・中学校

当該学校では、生徒が評論文（論説文）と小説をバランスよく読むことができるよう指導するため、常時、評論（論説）、小説本をそれぞれ1冊ずつ鞆に入れ、いつでも読める状況を作っている。また毎日、新聞を読むことも推奨している。

読書本については、月に1冊を目安に学年ごとに購入し、生徒個々に配付している。学年ごとに定番になっているものと、各学年の国語担当者が選定するもので構成され、古典的な作品、新書のバランスも考えながら購入している。読書した後、入学当初配付されている読書ノートに、あらすじ、感想などを記入し、国語担当者に提出している。読書本以外に各自が読んだ本も、読書ノートに記録を残すようにしている。

また、これまで「ストックノート」と称し、新聞記事をスクラップし、あらすじ、語句調べ、考察したことをまとめたノートを作成していた。2年前から『読書ワークシート通信』をSHRで活用している。与えられた記事の設問に答えることによって、時事問題に触れ、各自の考察に役立っている。

(3) 学校法人 松蔭女子学院 松蔭中学校・高等学校

当該学校では、入学時に司書職員による2時間の図書館オリエンテーションをはじめ、全校で50年近く続いている全校読書運動（夏休み前に全校でテーマを決め、学年毎に取組を決める）や国語科が中心になって「読書感想文コンクール」に全員が参加するなど読書活動を促進する取組を展開している。社会科（世界史）では著作権のあるDVD教材を図書館やホールで上映し、その後、読書や教室での座学に繋げる試みもある。図書館では生徒・教職員を問わず、推薦図書やリクエストを受け付け、すばやく提供するなどスピード感のある選書を心がけ、昨年度からは土曜日に図書館を地域の小・中学生に開放するなど、地域にも開く役割を担っている。併設大学である神戸松蔭女子学院大学の図書館との連携もあり、相互貸し出しができる仕組みもある。

(4) 遊文庫

当該団体は、平成15年、50代・60代の教員OBを中心に結成されて以来14年余り活動を継続し、当該市における読書活動の推進に貢献している。学校に対しては、メンバーの多くが教員OBである利点を生かし、スムーズな連携が行われている。子どもと本をつなぐことを目指し、近隣の小・中学校に出向いて紙芝居や読み聞かせ会を実施するほか、授業等における学校の教育活動を支援する等、実践は顕著である。

また、アウトリーチの観点からニーズを探り、活動場所を積極的に開拓するなどして、児童クラブや放課後デイサービス等、幅広い場所での読書の推進活動につなげてきており、市内の知的障がい者施設における読み聞かせも行っている。

さらに、他市の同様の活動を行う文庫（団体）と交流したり、講師を招へいし、研修会を開催したりするなどメンバーのスキルアップに努め、さらなる読書活動の推進・啓発に向け意欲的に取り組んでいる。